

高崎経済大学地域科学研究所 ニュースレター No.25

目次	所長挨拶	(1)
	事業報告① 第16回地域めぐり	(1)
	事業報告② 第21回公開講演会	(2)
	事業報告③ 第7回地域経営セミナー	(4)
	研究プロジェクト進捗報告	(5)
	地域科学研究所事業 受講者アンケート	(6)
	地域科学研究所動静	(9)

所長挨拶

本ニュースレターでは、高崎経済大学地域科学研究所の事業として、第16回地域めぐり、第21回公開講演会、第7回地域経営セミナー、地域交通プロジェクト進捗報告、公開講座受講者アンケート集計結果についてご紹介しております。ぜひご一読ください。

地域社会を取り巻く環境は急速に変化しており、人口減少や高齢化、地域経済の再構築、デジタル化、脱炭素社会への移行といった課題が顕在化しています。当研究所では、これらの課題に対し、地域の皆さまとともに知恵を出し合い、新たな価値を創造することを目指しております。

市民の皆さまには、今後とも当研究所の事業に積極的にご参加いただきますようお願い申し上げますとともに、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

所長 佐藤 徹

事業報告① 第16回地域めぐり

2024年10月14日に地域めぐりの「地形模型で学び、榛名地域をめぐる」を実施しました。

高崎市は平成以降の市町村合併によって広大な市域を有しています。このため、高崎駅や市役所のある中心部の標高がおおよそ95mなのに対して、北西部の榛名地域や倉淵地域は標高

1,000mを超える変化にとんだ地形となっています。今回の地域めぐりでめぐった榛名地域は、高崎市の中心部と地形や自然環境、歴史や文化も異なっており、普段高崎市で生活する私たちも地域のつながりを意識することはあまり多くはないのでしょうか。今回の地域めぐりでは、こうした変化にとんだ景観を見せる高崎市の様子を視覚的に体感してもらうために、午前中に参加者に図書館ホールで地形模型と使って作成したプロジェクションマッピングを使って榛名地域の様子について視覚的に学習してもらい、午後実際に榛名地域に出かける旅程としました。

図書館ホールには高崎市全域と榛名地域を拡大した2種類の地形模型を準備し、それぞれの地形模型にGIS（地理情報システム）で作成した地図をプロジェクターで投影しながら地域の様子について解説していきました。なお、これらの地形模型は2020年度から毎年ゼミの3年生が少しずつ作成したものになります。まず、高崎市全域の地形模型を使って平成に実施された市町村合併によって高崎市の市域が榛名地域に広がっていく様子を投影し、高崎市における榛名地域の位置や地形の特徴を確認してもらいました。次に、榛名山が噴火を繰り返しながら現在の姿になった過程の動画や、河川の流れを投影しながら火山災害や土砂災害の危険性も解説してきました。そ

の後は江戸時代から明治時代の榛名神社参詣の道を地形模型上で示しながら午後にくぐるルートを紹介し、榛名神社の門前に宿坊が集積していた「社家町」や、随神門や五重塔、本殿といった榛名神社の主要な施設の位置関係を確認してもらいました。こうして、高崎市全体の自然環境や歴史、見どころを共有してもらいました。



**<地形模型によるプロジェクションマッピング
実演の様子 講師：太田 慧 准教授>**

図書館ホールでの解説後はバスに乗り、古くからの榛名参詣の道「室田道」を通りながらゼミ生による榛名地域の食文化について解説を聞きながら榛名地域に向かい、榛名地域に到着後にはもともと宿坊であったそば屋の「赤門 般若坊」で般若坊の建物の特徴や榛名講のお話を聞きながら昼食をとりました。昼食後には社家町を散策しながら榛名神社に入り、随神門や橋のような形状が特徴的な鞍掛岩を見ながら榛名神社の境内を散策しました。この後は一般的な散策ルートから離れ、土砂災害を防ぐ目的で建設された砂防堰堤を見学しました。砂防堰堤は榛名川の水害による土砂災害の復旧工事で1955年に建設された高さ17 m、幅69 mのダムで、登録有形文化財にも指定されています。この砂防堰堤は榛名川と下流の烏川流域の防災に役立っており、榛名地域と下流の高崎市市街地との地形的なつながりを感じることができます。

最後に「悴田梨園」に立ち寄り、悴田さんの解説を聞きながら榛名地域でのナシ栽培の歴史や



<砂防堰堤見学と学生による解説の様子>

土壌条件などの自然とのかかわりについて学びました。悴田梨園には梨園カフェが併設されており、参加者はソフトクリームを楽しみました。

今回は通常の地域めぐりとは異なり、大学に集まってから現地に向かう旅程としました。地図や地形模型をみてから地域を歩けば、自然環境や歴史が重層的に重なった地域の成り立ちや「なぜここに観光資源があるのか」といったさまざまな問いに気づくことができます。今回の地域めぐりを通して少しでもまちあるきの楽しみ方をお示しできていれば幸いです。

最後にこの地域めぐりのために、下見の同行から見学先への折衝までご担当くださった地域科学研究所事務局、研究支援チームの井野さん、太田ゼミ3年生、参加者の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

太田 慧 (地域政策学部准教授)

事業報告② 第21回公開講演会

地域科学研究所の第21回公開講演会は、「性にまつわる議論の「すれ違い」」と題し、批評家・ライターとしてご活躍されている瀬戸マサキ先生をお招きして、2024年11月9日土曜日に実施した。

今年度の企画担当者として、過去の本研究所における公開講演会のテーマを眺めた際に、意外にも「ジェンダー」に関するものが扱われていないことに気づいた。2023年6月に「性的指向及び

ジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」が公布・施行され、本学においてもサステナビリティ委員会内ワーキンググループにおいてジェンダー・セクシュアリティ平等のための基本理念・基本方針を策定すべく検討が進められている。

上述した法律の施行や、社会の各セクターにおいてジェンダーやセクシュアリティに関する議論が進められている一方で、ごく一般的な認識、あるいはインターネットの世界の風聞において実質的な理解が進展していないような場面も生じている。とくに、性自認と身体的な性が一致していない人を指すトランスジェンダーをめぐる議論は、感情論やヘイトを含めた過激な内容も見られる状況にある。

こうした課題意識をもとに、本学の学生・教職員のみならず、市民の皆さんにも広く参加してもらえる公開講演会として本会を設定している。講師の依頼には、鈴木耕太郎先生のご協力を得て、瀬戸先生にお願いすることができた。瀬戸先生に書いていただいた本講演会のリード文は、まさに今回の意図を表現していただいたものであるのので以下に抜粋する。

“ジェンダーが専門ではないのに分かったような口をきくコメンテーター、LGBTQ+についての勉強などしたことないのにトイレの議論をするネットユーザー、身近な例だけを見て「私たちはそんなの求めてない」とトランスを巻き込み差別に迎合するゲイのインフルエンサー…。私たちはなぜ性に関する議論を「自分も口を出せる簡単なトピック」だと思ってしまうのだろうか。この講演では、安易に口を出すのでもない、かといって黙ってしまうのでもない、誠実で謙虚な議論をするための「LGBTQ+争点」基礎知識をお届けします。”

当日の参加者は、比較的若い受講者が多く、また本学の教職員や学生らも多く参加するものとなった。通常の公開講演会では、比較的高年齢の

市民の方の参加が多いなかで異例であるが、若者らもつ当該テーマへの関心の高さをうかがえるものであった。



＜講演の様子 講師：瀬戸 マサキ 氏＞

講義は、瀬戸先生が社会運動論として LGBTQ+ 運動などをご研究されるなかでの見解を踏まえつつ、その概念の沿革や展開について、海外の状況を踏まえながらわかりやすく解説していただけました。

とくに個人的に重要だと思ったトピックとして、当事者からの“Lived Experience (自分自身の経験)”を一般化してしまうことの危険性である。とくに自分の Lived Experience を否定しないものに安易に飛びついてしまうこと、その際にときに反学者的で非専門的なものを好む状況は、過度な論調が生まれる背景の理解につながるものであった。そしてLGBTQ+の問題をシングルイシューとしてとらえるのではなく、民族や貧困、社会問題など当事者のおかれた背景と合わせたマルチイシューとしてとらえることで、多くの人々が理解する、あるいは参画できる可能性が示された。

講演後は、参加者から活発な論点提示や質問が行われ、瀬戸先生からの見解を得ながら有意義な議論が行われた。本会を起点とし、本学のジェンダーやセクシュアリティに関する取り組みの一層の進展に期待を寄せる機会となった。

片岡 美喜 (地域政策学部教授)

事業報告③第7回地域経営セミナー

第7回地域経営セミナー

「自治体のEBPM－ロジックモデルとデータ分析を中心に」

高崎経済大学地域科学研究所では、自治体職員を対象とした「地域経営セミナー」を毎年度開催しています。本年度で第7回目を迎えた本セミナーは、2023年12月6日（金）14:00～16:00に高崎経済大学図書館ホールにて、対面とオンラインを組み合わせたハイフレックス方式で実施されました。今回は22の自治体と4つの外郭団体から計58名が参加し、活発な議論が展開されました。

近年、自治体においてもエビデンスに基づく政策立案（Evidence-Based Policy Making: EBPM）の重要性が高まっています。EBPMは政策の透明性や有効性の向上に寄与する一方で、その推進には行政組織内での課題解決が求められます。特に、ロジックモデルの構築やデータ分析をどのように実務に落とし込むかについて、多くの自治体が模索している状況です。

こうした背景を踏まえ、本セミナーでは「自治体のEBPM」をテーマに設定し、追手門学院大学の小野達也教授（鳥取大学名誉教授）を講師としてお招きしました。基調講演では、小野教授がEBPM推進のための具体的な手法や課題解決策について講演を行い、その後、筆者がコメンテーターとして総合討論を進行しました。

小野教授は基調講演で以下のポイントについて詳しく解説しました。まず、施策や事務事業の進捗管理システムが広く導入されている現状を評価するとともに、アウトカム測定における指標設定の重要性について言及しました。また、ロジックモデルを活用して政策効果を明確化する取り組みが増加していることにも触れました。次に、業績測定における評価指標の妥当性を検討する際には、単なる数値目標だけでなく、その背景となる政策ロジックを重視する必要があること

を具体的な事例とともに説明しました。さらに、EBPMにおける目標値設定や実績値との比較・分析プロセスについて、「より良いエビデンス」を提供するためには外部要因や交絡因子への配慮が不可欠であると強調しました。

最後に、小野教授は以下の3点を提言としてまとめました。第一に、多くの取り組みにおいて評価指標には改善余地があり、その改善はエビデンス・ベーストな政策立案に大きな効果をもたらすこと。第二に、評価指標設定や厳密なエビデンス取得には政策ロジックの確認が不可欠であること。そして第三に、「あるなし」の比較可能性を高めるためには外部要因や交絡因子をどれだけコントロールできるかが鍵となることです。

基調講演後には総合討論が行われました。来場者およびオンライン参加者から寄せられた質問には、小野教授が一つひとつ丁寧に回答しました。また、筆者もコメンテーターとして補足的なコメントを加えながら議論を深めました。



＜総合討論の様子 講師：佐藤 徹 教授（左）小野 達也 教授（右）＞

本セミナーでは、小野教授による専門的かつ実践的な知見が共有されただけでなく、参加者との意見交換も活発に行われました。EBPM推進への理解促進だけでなく、その実践方法について具体的な示唆が得られる機会となりました。本研究所では今後もこのような場を提供し、自治体職員による政策立案能力向上に寄与していきたいと考えています。

佐藤 徹

（地域政策学部教授、地域科学研究所所長）

研究プロジェクト進捗報告

第 22 回・前回ニュースレターでもご紹介いたしました。私達は昨年度から研究プロジェクト「高崎経済大学周辺の地域交通とその将来性に関する研究」を実施させていただいています。昨年 7 月に関越交通(株)からご講演者をお招きして実施した本プロジェクトの第 1 回公開講演会に引き続き、11 月 8 日(金) 14:20~15:50 には第 2 回公開講演会として株式会社みちのりホールディングス・ディレクター(前小山市都市整備部長)の浅見知秀氏にお越しいただき、図書館ホールにて「地域公共交通の利用促進が都市に与えた影響：バス利用者が 3 倍に増えた栃木県小山市の実践」との題でご講演いただきました。プロジェクトメンバー(会場およびオンライン)・学生・外部の方々などを含め約 30 名のご参加者がありました。

地方都市の公共交通はモータリゼーションや人口減少、人手不足などの影響で厳しさを増しているケースが多くなっていますが、デザインや工夫、熱意などによっては状況が好転する例も見られます。高崎市と地理的・条件的に比較的近い特徴を持つ栃木県小山市においては、コミュニティバス「オーバス」の利用促進が図られた結果、利用者が大幅に増加し、当該プロジェクトがグッドデザイン賞を受賞するにいたったということで、プロジェクトを担当された浅見知秀氏をお招きし、実践の様子や都市への影響などに関してご講演いただく、という趣旨で本講演会を実施いたしました。

浅見氏は昨年 3 月に長野県上田市の信州大学(繊維学部キャンパス)で開催されプロジェクトメンバーも 6 名が参加した、「第 11 回人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」の市民フォーラムで基調講演者をご担当されておられ、そのときの縁で本学にもお越しいただけることになりました。「イクメン」でも知られるお若さと行動力、生き生きとしたお話を現地で伺い、メンバー

から本学でもぜひお話の続きを、とご依頼した結果、ご快諾いただきました。

ご講演では高崎市から比較的近い上に車社会・新幹線停車駅など状況も似通った栃木県小山市におけるバス利用者の劇的な増加を導いた政策などを中心に、大変興味深いお話を伺うことができました。とくに、バスの運行改善だけでなく料金やサービス内容を思いきって大きく見直した定期券の導入、情報タブロイド誌などを活用したモビリティ・マネジメント、まちなか再生も含めた積極的な目標など、新しい話題を数多くご提供いただきました。本学周辺における公共交通関連の議論、とくに国際的・全国的な成功例を踏まえた議論では必ずといってよいほど「でも、群馬県は車社会なので無理」といった否定意見が出るのが常ですが、本例は同じ北関東であり高崎市の半分程度の人口の都市における成功例である上、このような政策の責任者としては比較的若く、新しいアイデアや行動力溢れる浅見氏の経験談ということもあって、ご参加者の方々の反応も普段とはだいぶ異なり、質疑応答も非常に熱気のあるものとなりました。



<講演の様子 講師：浅見 知秀 氏>

なお事前の準備や当日の実施においてはメンバーの先生方や事務局の方々に多くのご尽力をいただきました。とくに西野寿章名誉教授(前所長)、大島登志彦名誉教授には講演依頼時や講演会後に設定した浅見氏との懇談においてもご協力いただきました。ありがとうございます。

米本 清 (地域政策学部教授、
同プロジェクトリーダー)

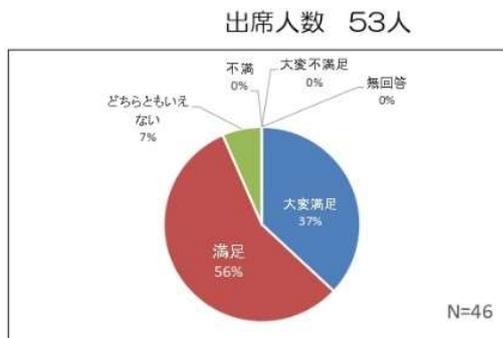
地域科学研究所事業 受講者アンケート

第41回公開講座アンケート調査結果報告(12/3)

受講後、アンケート調査を実施した。
 [有効回答数：46人（回収率：86.79%）]

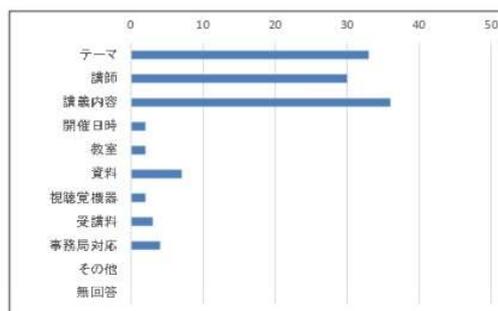
問1. 満足度

	【単位：人】
大変満足	17
満足	26
どちらともいえない	3
不満	0
大変不満足	0
無回答	0
合計	46



問2. 問1で「大変満足」「満足」と回答した方が評価する点（複数回答可）
 や講師に向けての感想（自由記入）

	【単位：人】
テーマ	33
講師	30
講義内容	36
開催日時	2
教室	2
資料	7
視聴覚機器	2
受講料	3
事務局対応	4
その他	0
無回答	0



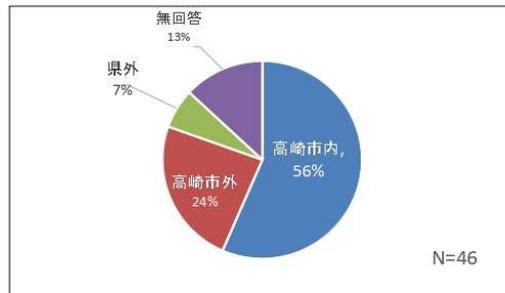
- ※ AI関係について興味深く拝聴でき、今後勉強しようと思った。
- ※ 世の中がものすごく速く進化していることが理解できました。ついていけない人は大変ですね。
- ※ 時代におけるChatGPTの位置、日常活動とChatGPTの関係など、理解できた。どのように使いこなすか、使いこなしてハッピーな生活、社会を作っていくか、が大きなテーマになっていると感じた。
- ※ AIについて、具体的使用方法がわかった。
- ※ 耳にしても、どう使用するかがわからないのですが、デモンストレーション等で、いづらか身近になったようです。振り返ってアクション＝使用していきたいと思いました。ありがとうございました。
- ※ ChatGPTがどんなに便利かよく分かりました。なにせ機械は不得意です。
- ※ 高齢につき、なかなか理解できませんがチャレンジします。
- ※ 使いこなす能力も要求される。
- ※ 興味あるテーマでした。
- ※ ChatGPTが昨年の講座から比べると、今回の内容を聞いて身近に感じた。AIの開発が進んでいることが、講師の伝え方でわかりやすと感じた。
- ※ ChatGPTについて再認識する機会となった。試してみたい気持ちになった。
- ※ 最新のテーマをお聞きすることができて有意義だった。
- ※ 明快で良い。
- ※ ChatGPTについて知る事が出来たので、大変有意義でした。未知の分野なので、次回も機会があれば受講したいと思います。ありがとうございました。
- ※ 最新の講義をありがとうございます。具体的な事例があったので、わかりやすかったです。
- ※ AIは使い方を間違わず、生活や社会の発展に活用出来たらよいと感じた。
- ※ AIのこの1年での進化やその周辺システムについてよく知れた。
- ※ 実際にどう使用するのかを、講義中に入力して示してくれたので、実感が理解できた。ZOOM参加なので、講師と一緒にプロンプトをスマホに入力してみた。ZOOMの切り替えもスムーズで、運営スタッフの運営の仕方が素晴らしいかった。
- ※ ChatGPTの現状と課題が大変よくわかりました。また、様々な分野における熟達者AIの発展が期待できると思いました。新人教育など、不適切な上司や同僚等より、はるかに教育的配慮の中で指導が受けられるのかもかもしれません。教育分野や医療分野で発展していくと素晴らしいと感じました。
- ※ ChatGPT、内容は私にとっては難しいのですが、少し世の中の状況を理解できたような気がする。インターネットはすごい進化をしていることを強く意識した。
- ※ この2年で、さらにAIが進化した様子が分かりました。対象が大学生の場合、墮落につながる悪い使い方を防ぐことに力を使うより、動機づけをしながら、成長につながる良い使い方を示すことに力を使った方が良さそうだと思います。

問3. 問1で「どちらともいえない」「不満」「大変不満」と回答した方が指摘される点
(自由記入)

- ※ 画面説明ページと配布説明ページが異なっている。
- ※ 抽象論と具体論が混在して、もう一つ理解が進まない。でも、ChatGPTを使えるようになりたい。
- ※ 身近に感じなければならぬかもしれないが、今までにない分野。

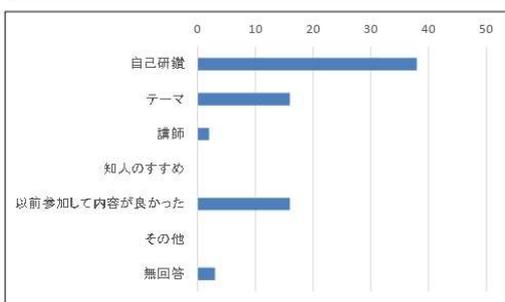
問4. 通学・通勤・所属先の地域

【単位:人】	
高崎市内	26
高崎市外	11
県外	3
無回答	6
合計	46



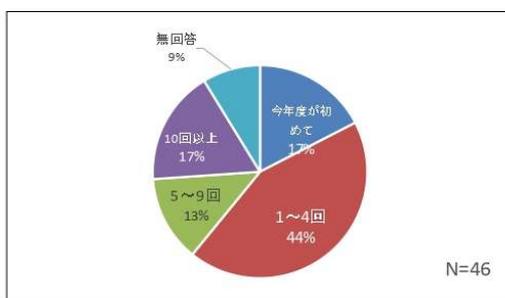
問5. 受講の理由 (複数回答可)

【単位:人】	
自己研鑽	38
テーマ	16
講師	2
知人のすすめ	0
以前参加して内容良かった	16
その他	0
無回答	3



問6. 昨年度までの受講回数 (連携公開講座も含む)

【単位:人】	
今年度が初めて	8
1~4回	20
5~9回	6
10回以上	8
無回答	4
合計	46



問7. 春季連携公開講座の受講回数

【単位:人】	
受講したことは無い	15
1回	6
2回	10
3回	3
4回	2
5回以上	5
無回答	5
合計	46

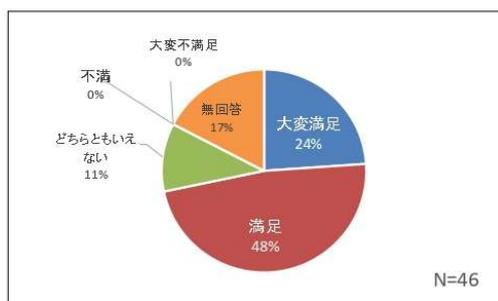


※ 何回かあり

問8. 今回講座の全体的な満足度

【単位:人】

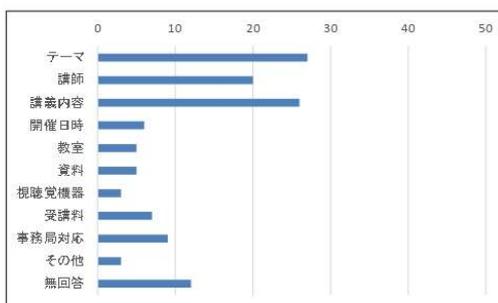
大変満足	11
満足	22
どちらともいえない	5
不満	0
大変不満	0
無回答	8
合計	46



問9. 問8で「大変満足」「満足」と回答した方が評価する点（複数回答可）

【単位:人】

テーマ	27
講師	20
講義内容	26
開催日時	6
教室	5
資料	5
視聴覚機器	3
受講料	7
事務局対応	9
その他	3
無回答	12



※その他

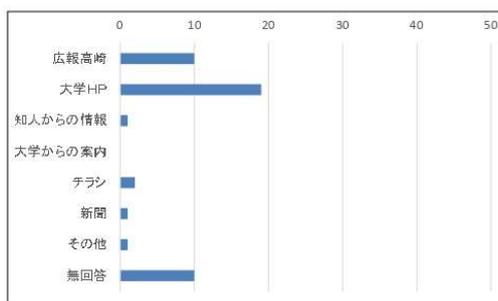
- ・ 回による。
- ・ オンライン、対面の両方が、その都合よくできること。
- ・ ハイブリットであったことが、何よりも良かった。距離的・時間的制約のために、会場まで行けないのでぜひハイブリット形式を続けてほしい。

問10. 問8で「どちらともいえない」「不満」「大変不満」と回答した方が挙げた改善すべき点（複数回答可）

- ※ 1回目の講義で資料をいただけず（リモートで受講、2回目は大学へ行ったがもらえなかった）講義も最後の方は時間が足りず、すく早く終わったにもかかわらずビデオも公開されなかったため、復習も出来なかった。
興味があったテーマであったため、非常に残念だった。公開しない理由も「先生の指示」というだけで納得できないものがあった。
- ※ オンラインで参加しましたが、資料が事前に用意できず、メモが生かせずに残念でした。
各講義内容については、難しいものもありましたが、興味深く拝聴でき、満足しております。
- ※ 全体がわかるほど出席していないので。

問11. 本講座をお知りになったきっかけ（複数回答可）

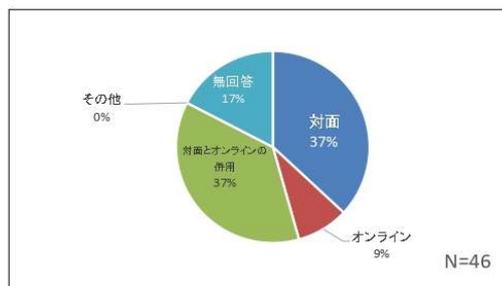
広報高崎	10
大学HP	19
知人からの情報	1
大学からの案内	0
チラシ	2
新聞	1
その他	1
無回答	10



※その他・・・ぐんま広報誌 1名

問12. 今後の公開講座に参加する場合、希望する受講スタイル

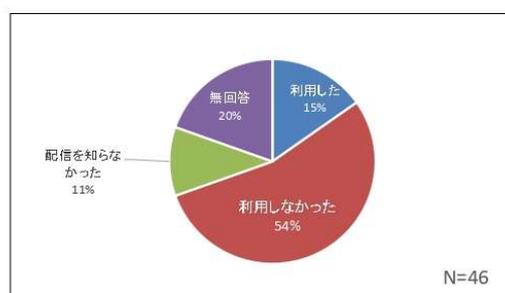
対面	17
オンライン	4
対面とオンラインの併用	17
その他	0
無回答	8
合計	46



問13. 今回初のオンデマンド（録画）配信の利用状況

利用した	7
利用しなかった	25
配信を知らなかった	5
無回答	9
合計	46

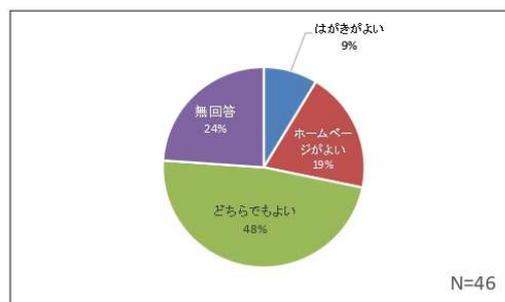
※利用した回数
 1回・・・3名
 3回・・・3名
 回数不明・・・1名



問14. 広報高崎での公開講座の申込案内の方法について

はがきがよい	4
ホームページがよい	9
どちらでもよい	22
無回答	11
合計	46

※ どちらも選べる方法が良い



地域科学研究所動静

地域科学研究所紀要 『産業研究』 第 60 巻 第 1 号を発刊しました。今号では、論文 2 本、研究ノート 1 編、書評 1 編を掲載しました。本学図書館ホームページ（リポジトリ）よりご覧頂けます。

前号で紹介させて頂いた、愛知大学地域政策学部の駒木伸比古教授による『地方都市における中心市街地の課題－人口減少時代とまちづくり－』の書評を掲載しております。

高崎経済大学地域科学研究所
 ニュースレター No.25
 発行 2025年2月28日
 群馬県高崎市上並榎町 1300(〒370-0801)
 TEL(027)344-6267 FAX(027)343-7103
 E-mail : chiikikagaku@tcue.ac.jp
 ©TIRS